



令和元年 8 月 7 日
海上保安庁

「海洋環境保全推進月間」における活動状況について

海上保安庁は、5月30日（木）から6月30日（日）までの期間を「海洋環境保全推進月間」とし、「未来に残そう青い海」をスローガンに、海洋環境保全指導・啓発活動を全国で重点的に実施しました。

今年度は、公益財団法人 海上保安協会、自治体、学校等の協力のもと、公益財団法人 日本財団の主催する「CHANGE FOR THE BLUE」^(※1) の取組と連携し、「海ごみゼロウィーク」^(※2) において全国228か所の海岸等で約3万人の方々と海浜清掃を行い、あわせて海洋環境保全啓発活動を実施することで、多数の方々に身近なごみが海洋汚染に結びつく現状を体感してもらう等、海洋環境保全の意識高揚につなげるための活動を行いました。

この結果、

- ・海洋環境保全講習会：69回（参加人数1,854人）
- ・訪船指導：1,294隻
- ・訪問指導：621か所
- ・海洋環境保全教室：109回（参加人数7,048人）
- ・漂着ごみ分類調査：35回（参加人数7,012人）
- ・漂着ごみ回収数：約56,000袋 ※30リットルごみ袋換算

といった海洋環境保全指導・啓発活動を行ったほか、電光掲示板、環境パネル、FMラジオ放送等を活用した周知・広報活動を行いました。

活動の詳細は、別紙をご確認ください。



訪船指導及び訪問指導



環境紙芝居を活用した
海洋環境保全教室



「CHANGE FOR THE BLUE」と連携した
海浜清掃活動

※1 「CHANGE FOR THE BLUE」

公益財団法人 日本財団が平成30年11月から推進している新プロジェクトで、国民の一人ひとりが海ごみの問題を自分ごととし、“これ以上海にごみを出さない”という社会全体の意識を高めるため、「海と日本プロジェクト」を基盤とした産官学民が協力し合う取組。

※2 「海ごみゼロウィーク」

環境省及び公益財団法人 日本財団が今年2月から推進している共同事業の1つであり、5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）前後までの期間を「海ごみゼロウィーク」として、海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃活動を行い、その取組結果を世界へ発信していくもの。

主な活動事例

【海洋環境保全指導】

- 海洋環境保全講習会
海事・漁業関係者、港湾事業者、マリンレジャー関係者等を対象に、海洋汚染の現状、対象者の事業内容等に応じて、油等の排出防止、廃棄物の適正処理、海上環境関係法令の遵守等について講習を行いました。
- 訪船指導
タンカーでは「バルブ開閉不確認」による油の排出が多く発生していることから、その防止のためタンカーを訪船し、バルブの開閉確認、オーバーフロータンクの設置、スカッパの閉鎖等の排出防止措置の実施について指導を行いました。
- 訪問指導
海事関係企業、マリーナ、漁業協同組合等の事務所及びマリンレジャー愛好者等を訪問し、海洋環境保全啓発リーフレットの配布、不法投棄防止の呼びかけ等を行いました。



海洋環境保全講習会



タンカーに対する訪船指導



マリンレジャー愛好者に対する訪問指導

【海洋環境保全啓発活動】

- 海洋環境保全教室
若年層を含む一般市民を対象に、対象者の年齢構成等に応じ、環境紙芝居の上演、簡易水質測定、漂着ごみ分類調査等を織り交ぜるなど創意工夫をし、海洋環境保全思想の普及を行いました。



環境紙芝居の上演



簡易水質測定



漂着ごみ分類調査

- 電光掲示板等を活用した啓発活動

ショッピングモール、水族館、スタジアムといった集客施設、駅等の公共施設、多数の方が訪れるイベント会場等において、電光掲示板、横断幕、ポスター、環境パネル等を活用した海洋環境保全思想の普及・啓発を行いました。



電光掲示板の活用（スタジアム）



電光掲示板の活用（駅構内）



環境パネル展